

# DPA (DWIDP) JICA 便り

防災対策アドバイザー (Disaster Prevention Advisor) 水資源省治水砂防局 (DWIDP)

No. 1 / 2006 . 9 . 27

今月から治水砂防局 (DWIDP) に防災対策アドバイザー (Disaster Prevention Advisor) が派遣されることになりました。これまでお送りさせていただいた「便り」も、「DPA (DWIDP) JICA 便り」として新たにお送りさせていただきます。今後とも引き続きご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。



タイ地方の水害を報じる記事  
(9月10日 カトマンズポスト紙から)



土砂流出により通行止めとなった M-N 道路  
(9月11日 カトマンズポスト紙から)

ネパールの雨期は9月末まで続きます。今年は雨期後半の8月下旬から9月上旬にかけて西部地域で大雨による水害・土砂災害が発生し大きな被害をだしています。9月1日から20日までに、これら水に起因する災害により死者・行方不明者51人、全壊家屋73戸、避難385世帯と報道されています。またカトマンズへの人・物資輸送の生命線であるムグリン-ナラヤンガード道路(M-N 道路)においてもランドスライドにより通行止めが発生したと新聞紙上でもとりあげられました。

国内情勢については、なにかの事件等をキッカケとして古タイヤを路上で燃やしたりして封鎖をするチャッカジャム(チャッカとはタイヤの意)が何度か発生しています。また14日には政府が購入した武器をカトマンズに輸送しているとして、マオ派による道路封鎖・車両のチェック及びバンダの呼びかけがあるなど(その後バンダは撤回)、突然交通が遮断される事態が

発生しています。マオ派と政府の交渉も順調にしているとはいえない状況に見えます。

ネパールでは例年10月上旬にダサインという、日本のお正月にあたる行事(10日程度連休となる。今年は9月29日から)があります。この間故郷に帰り、家族みんなで過ごします。また10月下旬にはティハールというカトマンズ盆地の先住民であるネワール族のお正月の行事もあり、この1ヶ月間は事実上仕事がストップしてしまう傾向があります。

今後とも安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って活動をしていきたいと思っております。

伊藤・矢野衆議院議員が DWIDP を訪問されました

伊藤忠彦衆議院議員、矢野隆司衆議院議員、そして二階俊樹氏(二階俊博経済産業大臣)

(当時。また日本ネパール友好議員連盟会長)秘書)が、日ネ友好50周年記念行事出席のために8月31日～9月2日の日程でネパールをご訪問され、そのお忙しい日程の中、9月1日に治水砂防局(DWIDP)を視察いただきました。

まず武士専門家がDWIDP1階のエントランスルームのパネルでネパールの地勢や災害の状況について説明しました。当日、バツライ(Mr.Narayan Prasad Bhattarai)局長とシャルマ(Mr.Shiv Kumar Sharma)副局長はインド政府との協議のためパトナ(インド)に出張中で、プラダハン(Mr. Lal Chand Pradhan)副局長が局長室にてDWIDPについて説明し、また日本の援助に対して感謝の意を伝えました。

DWIDPご訪問は、直後に日ネ友好50周年行事を控え非常に短い時間でしたが、ネパールの実情を把握していただいたと考えています。



パネルによる説明(左から伊藤議員、矢野議員、二階秘書、武士専門家)



プラダハン副局長(手前)による説明

#### 主な出来事・トピック

#### レグミ WECS 事務局長がテレビで水害に関するインタビューを受けました

前の DWIDP 局長で、現在は水資源省水エネルギー委員会 (Water and Energy Committee Secretariat ; WECS) のレグミ (Mr.Shital Babu Regmee) 事務局長が9月2日夜のカンチプールTVの番組に出演され、今年8月末に発生した西部の水害に関してのインタビューを受けました。番組では特にインド国内に設置されているダムの影響で、ネパール国内の、ある河川が氾濫したのではとの声に対して、同一の雨量状況と思われる地域の河川において、下流のインド国内のダムの有無にかかわらず、複数の河川で洪水が発生していることなどから、インドのダムの影響というよりは、洪水の原因はやはり大きな降雨によるものであると理論的に説明されていたとのことでした(ネパール語による放送のため、内容は通訳のロッシュン氏による)。



TV 出演中のレグミ WECS 事務局長  
(9月2日 Kantipur TV から)

#### 防災対策アドバイザー活動

#### 防災対策アドバイザーとは

9月1日から2008年8月31日までの2年間、治水砂防局に派遣されることになった防災対策アドバイザーの業務についてご紹介させていただきます。

防災対策アドバイザーのTORのなかで、その「活動」として記載されているのは以下の

3項目です。

治水砂防局にて各省庁との横断的な連絡調整、合同調整委員会・災害調査委員会等の運営を指導する。

各省庁の持っている災害情報の迅速で一元的な収集により、効果的な災害対応ができる防災体制を構築する。

被害の拡大を防ぐため迅速な支出が可能となる災害復旧基金等制度の設立を指導する。

それぞれの項目について、次のように具体的な活動内容にブレイクダウンしています。

については、関係省庁・組織・委員会等の役割の把握・整理のための聞き取り調査、今回の豪雨災害に際しての活動状況把握のための聞き取り・現地調査等のうえ、各種委員会の運営指導、 については、関係機関の持っている情報収集システムの把握のための聴取、DWIDP のシステムとの接続等に関する検討、国全体としての情報システムのあり方の検討、災害情報システム連絡会議（仮称）の運営指導、 については、日本の災害復旧制度の紹介、必要な制度のあり方・問題点の整理・検討、制度設立のための指導、としています。この他、水起因災害に関するマネジメントガイドライン作成や土砂災害危険箇所管理マニュアル作成の指導等も必要項目と考えています。これらについては JICA 事務所、DWIDP に説明し、関係機関への説明・聞き取りを開始したところです（次項目参照）。

#### 内務省の防災担当に防災対策アドバイザーの説明をしました

9月24日（日）、内務省の防災担当の Joint Secretary である、プラタップ कुमार パタック氏（Mr.Pratap Kumar Pathak）と、Under Secretary のティルバハドゥール G.C.氏（Mr.Thir Bahadur G.C.）に対して、防災対策アドバイザーの職務について説明する機会を得ました。



内務省防災担当のパタック氏（左写真）と G.C.氏（右写真）への説明状況

まず実務を取り仕切っている Under Secretary のティルバハドゥール G.C.氏に対して武士専門家から、防災対策アドバイザーの TOR の英訳を示しながらその内容について説明しました。G.C.氏からはいくつかのサジェスションや、内務省での取り組みの概要を聞かせていただきました。その後、Joint Secretary のパタック氏に面会し、ダサイン休暇明けに、内務省における、今年8、9月の水害・土砂災害時の対応等について説明していただくことに快諾いただきました。

#### 編集後記

中川専門家が離任し一人となり、本便りも一人で編集・作成することになり改めて大変になったと感じています。作業量もさることながら、内容の適否等の相談をする相手がいなくなり、独りよがりにならないかなど心配しています。ご意見等いただければ幸いです。

編集責任者：武士俊也

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：[dmspfu@wlink.com.np](mailto:dmspfu@wlink.com.np)